

## 1. 狭く閉じられた場所 (※) の「取り残し」「閉じ込め」の特徴

- ★狭く、閉じられた場所は、「子どもが出ていけない」という点で安全  
⇒ 「園敷地から出ていく」「公園から出ていく」とは異なる
- ★狭く、閉じられた場所に、水、暑熱などのハザード (危なさ) (※※) が加わると、  
「子どもは出られない」から、きわめて危険
- ★取り残し+閉じ込め+暑熱ハザード = 温度によっては1時間もかからず死亡
- ★車内温度が上がる時期の取り残し閉じ込めは、数時間後に人数確認で気づいてもすでに手遅れ!

とにかく取り残さない!!

- ★狭く、閉じられた場所なのだから、取り残さない確認は容易  
⇒ 園敷地や公園から出ていった場合、どこへ行ったかはわからない

※狭く、閉じられた場所=送迎車両、資材庫、物置、トイレ部屋、園庭のトイレ等

※※ハザードとリスクの定義、ヒヤリハットとニアミスの違いは、『子どもの「命」の守り方』  
(エイデル研究所、2015)

## 2. 取り残さない確認：誰もいないことを、声出し指差し行動で確認

- ★通りがかりに「ドアが開いている」と気づいた時、むやみに閉めない。必ず一度開けて、誰もいないことを確認してから閉める  
(幼児は自分でトイレに行く。おとなを資材庫に閉じ込めた例もある)

- ★閉める前に、誰もいないことを必ず声出し指差し確認する

「誰がいる? お返事して」はダメ。  
子どもはどこでも眠るので。

- ・自分一人で (※)、見る方向に指 (手) を向けて、「誰もいない!」「誰もいない!」と大きな声で
- ・送迎車両は一番後ろから全席。座席の下にすき間があれば、そこも「誰もいない!」

※ 複数人でしない。複数だと、しゃべってしまう＋「〇〇さんが見てくれているだろう」という油断が起こる  
送迎車両の場合は責任重大なので、1人が終わったら、もう1人が同じ行動

★指差し＝見ている方向を確実に見るため。指を差さないと目は泳ぐ  
声出し＝自分の脳に、自分が今していることを伝えるため。声を出さないと、  
脳は別のことを考え始める（うわの空）

声出し指差し確認：「保育の安全」（検索）→「安全」→2－3

おまけ

- ・あなたは法人の正規職員ですか？ 契約職員や委託職員ですか？
- ・「取り残さない確認」は、契約上、あなたの業務範囲ですか？
- ・送迎車両の運転は非常に認知エネルギーを消費します。運転業務に加えて、「取り残さない確認」までしますか？ できますか？ 無理なら、「できない」「責任は取り切れない」と伝えましょう